



Title	エル・シードの“ Perception ”におけるステレオタイプへのアプローチ考 -心理学理論との比較から-
Author(s)	佐々木, 美加
Citation	明治大学教養論集, 548: 99-109
URL	http://hdl.handle.net/10291/21240
Rights	
Issue Date	2020-09-30
Text version	publisher
Type	Departmental Bulletin Paper
DOI	

<https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/>

エル・シードの“Perception”におけるステレオタイプ へのアプローチ考：心理学理論との比較から

佐々木 美 加

I エル・シードの作品とステレオタイプ

1. 本研究の目的

本研究は、アーティストのエル・シード (eL Seed) の芸術活動の中で行われているステレオタイプを修正する試みを取り上げる。彼はその独特の手法によって作品をつくる現地の人々に働きかけていき、傑出した作品とともにステレオタイプの修正を広めていく。そうしたエル・シード (eL Seed) のアートを用いたステレオタイプへのアプローチの特質を記述すると共に、心理学のステレオタイプ研究との比較を行う。心理学の研究法との比較を行うことにより、アートによるアプローチで出来ることと心理学で出来ることを相対化する。両者を相対化することで、これまで行われてきた心理学におけるステレオタイプ研究の意味を問い直し、アートによるステレオタイプへのアプローチとの範疇や方向性の違いを明らかにする。最終的に、ステレオタイプに対してアートと心理学は何を為すことが出来るのか、両者はそれぞれどういう役割を担うのかを考察する。

2. エル・シード (eL Seed) とは

エル・シード (eL Seed, 2016) のホームページ (<https://elseed-art.com/>) によると、彼は、チェニジア人の両親を持ち、1981年にパリで生まれ、若

い頃はグラフィティやブレイクダンスを学んだという。彼はルーツのアラビアとは接触がなく、家ではタンザニア語だけを話していた。エル・シードが10代の頃、自分のルーツのアラビアのアイデンティティを求め、初めてアラビア語を学び、カリグラフィーの芸術的スタイルを発展させた。やがてアラビア語カリグラフィーが彼にとってフランスとタンザニアの両方のバックグラウンドに重要なことに気づき、世界中の架け橋となるツールとしてカリグラフィーを使うようになった。彼はこのカリグラフィーを用いたアートをカリグラフィティと呼んでいる。

エル・シードのカリグラフィティ作品は、キャンバスに描かれたアラビア語カリグラフィーもあれば、立体造形物のアラビア語カリグラフィーもある。その多くは公共空間に作成され、サインも書かれず著作権も主張しない。彼の作品は公共空間にある造形物であったり、公共空間の壁に描かれたもので、人々のためにあるものであり、多くの場合人々と共にある。こうした民主的アートの考え方から、彼のドバイのスタジオはいつもオープンにされていていつでも誰でも訪問できるようにしている。彼の作品に込められた考え方は、世界中の彼の作品に見ることが出来、それはルイ・ヴィトンのスカーフのデザインにまで至る。正に「人々と共に」が実現されており、ある種人々の傍らにある、そばにあると言ってもいいかもしれない。

特にプロジェクトで行われたアート作品は、サウジアラビア、レバノン、エジプトなど中東諸国やエル・シードの出身国のフランスのリヨンやチェニジアだけでなく、アメリカ合衆国のフィラデルフィア、カナダのトロント、韓国にもある。彼のプロジェクトでは、世界のスラム街や北朝鮮・韓国の非武装地帯でも作品が作られ、いずれも分断した世界の架け橋になる作品とされている。

このような彼の作品について、Zahar & Roberge (2016) は、アラブ-西洋の遭遇のストリート・アートの一つとして位置づけている。エル・シード自信、アラビア語カリグラフィティを用いて平和、融和、及び人間という存

在の共通性についてのメッセージを広げると述べている。彼のアート作品は世界中で見られ、その作品はコミュニティを一体化させ、ステレオタイプを修正することを目的としている。その代表的作品の一つが“Perception”である。“Perception”の中でのステレオタイプへのアプローチについて詳述する前に、ステレオタイプが心理学分野でどのように捉えられてきたかを概観する。

Ⅱ ステレオタイプとは

1. 心理学におけるステレオタイプの捉え方

ステレオタイプは、ジャーナリストのリップマン (Lippmann, W.) が、「環境つまり外界の事象や集団の成員等に関する、単純化されて頭の中に描かれた像」の意で用いた言葉である (Lippman, 1922)。リップマンは、頭の中に描かれたステレオタイプは、実態を正確に反映していないと考えていた。

ステレオタイプの日本の心理学界での定義づけを二つの心理学辞典で見してみる。まず有斐閣心理学辞典では、ステレオタイプとは「集団とその成員に対する過度に一般化された否定的または肯定的な認知を指す」とされる。関連する用語の偏見は、「集団とその成員に対する否定的な認知および感情の複合体」と定義している。同項の中で、杉森 (1999) は、いくつかの研究例を挙げ、ステレオタイプは、自動的・無意識的に生起することや、ステレオタイプに合致しない成員行動を例外としてサブタイプ化してしまうため、ステレオタイプの修正は困難であるとしている。

また、社会心理学用語辞典によれば、ステレオタイプは、「環境つまり外界の事象や集団の成員等に関する、単純化されて頭の中に描かれた像」とされる。更に、ステレオタイプの特徴として、「個人の持つ像であると同時に、その個人特有のものではなく、個人の属する集団や文化の中で共通して受け入れられるようなものの見方」であるとしている (木船, 1987)。同辞典の

中にはステレオタイプの認知の項目もあり、その中で浜名(1987)は、「ステレオタイプとは、(中略)他者のパーソナリティを判断する時、外部に現れた一部の特徴(皮膚の色、花の形、体型など)やその人に関するカテゴリーの情報(性、年齢、職業、国籍、人種など)によって人を分類し、それぞれのカテゴリーに一般的であるとされる特性群や一定の固定概念をその人に当てはめて認知してしまう傾向である」とし、関連する概念である偏見について、「明確な根拠を持たない非論理的で感情的な認知」とし、「ある社会や集団に共有された認知もしくは態度」と述べている。

これらの日本で作成された心理学辞典では、ステレオタイプの集団に対する認知であり、必ずしも否定的なものや偏見と結びついていることが強調されていない。ステレオタイプには否定的なものも肯定的なものもあり、単なる情報処理に用いられる道具として位置づけられている傾向が見られる。これに対して、アメリカとイギリスでの心理学辞典でのステレオタイプの記述は以下のものであり、ネガティブな内容のものが多く記されている。

APA(American Psychological Association)の心理学辞典の日本語版では(繁榊・四本, 2013)、ステレオタイプは「ある特定の集団や社会的カテゴリーの成員の特質や特徴に関する、ひとまとまりの一般化された認知(たとえば、信念、予期など)のこと。(中略)近くや判断を単純化したり、ポジティブというよりはネガティブであり、知覚がステレオタイプと整合しないような特質を持った個人に出会った時であっても、改められにくい。」と記述されている。

Oxford University Pressが出版した心理学辞典の日本語版では(藤永・仲真, 2005)、ステレオタイプは「比較的固定され、過度に簡略化された、集団や階級についての一般概念。(中略)通常は否定的で好ましくない特性に焦点を当てるもの。」とされている。更に、「リップマンが認知的儉約の概念からステレオタイプの理論化を行ったこと」や、「1950年代にオールポートが、「ステレオタイプは情報処理を単純化し、拒否したい情報に対して抵抗

力をつける認知的カテゴリーにすぎない」とした解説が支持を得た」と記されている。

日本での心理学辞典のステレオタイプの記述とアメリカ・イギリスでの心理学辞典でのものでは、ネガティビティの点で記述の違いが見られたが、共通して、「人が他者や集団について情報処理する場合に用いる認知的枠組み」として捉えていることが窺える。これは過去の心理学のステレオタイプ研究では、偏見との関連や人種を要因とした研究が多く行われたが、オールポートの「認知的カテゴリーに過ぎない」との説が支配的となり、世界を理解するための認知的枠組みと考えられるようになったためと考えられる。こうした経緯で、心理学におけるステレオタイプの研究は、どのようなメカニズムでステレオタイプが生じ、維持されていくのかが実験的に研究されていくことになった。

杉森（1999）が引用した研究にもあるように、心理学の研究でステレオタイプが修正しにくいというメカニズムが明らかにされたこともあり、心理学は否定的ステレオタイプを修正という方向から遠ざかっていったのだろう。そうした心理学のステレオタイプに対するスタンスとは対照的に、エル・シードのアート・プロジェクトでは、ステレオタイプの修正へのアプローチが展開されている。次節では、エル・シードのプロジェクトの一つ“Perception”において見られたステレオタイプ修正の過程について詳述する。

Ⅲ エル・シードの“Perception”によるステレオタイプ修正

1. エル・シードのプロジェクト“Perception”

エル・シードの世界中で行ったプロジェクトの一つ、“Perception”は、エジプトのカイロの郊外に位置するマンシーヤ・ナセルで行われた。そこには、エジプトのキリスト教徒コプト教徒のザバリーンのコミュニティがあるが、彼らのコミュニティでは、カイロの都市ゴミを収集することで生計が成

り立っていた。そのため、ザバリーンに対する「ゴミ収集者」という認知が固定的で、すなわちステレオタイプが形成されていた。

エル・シードのチームは、このマンシーヤ・ナセルの町並みに、アナモルフオーシスの手法を用いてアラビア語でのメッセージを浮かび上がらせるプロジェクトを行った。約50の建物にカリグラフィーが施され、マンシーヤ・ナセルのモカッタムの丘の上から見ると、建物に書いたアラビア文字のカリグラフィーが浮かび上がるというものだった。50の建物の中には、コプト教の教会も含まれていて、浮かび上がる文字は、アレクサンドリアのコプト教の教主・聖アタナシオスのことばで「陽の光をはっきりと捉えたくば、まず己の目を浄めよ」(“Anyone who wants to see the sunlight clearly needs to wipe his eye first”)というものだった (eL Seed, 2016)。

こうしたエル・シードの“Perception”について、Gralińska-Toborek (2017) は、エル・シードの作品が町の人々に「ゴミ収集者」ではなく「最も効率良いグローバルなリサイクルシステム」という視点に目を向けさせた点を特に強調している。また、Garcia-Vasquez (2016) は、“Perception”におけるエル・シードのカリグラフィティが、社会から見て見ぬふりをされ、阻害され、誤解されているコミュニティを団結させるのに一役買っていると述べている。また、Jonathan (2016) は、エル・シードの“Perception”は、アラビア語カリグラフィティによって見方を変えていることを記事にしている。

Alshammari (2019) もまた、“Perception”におけるカリグラフィティは、宗教的メッセージを浮かび上がらせるアナモルフオーシスを用いて、カイロの「臭いゴミ収集の人々」から「高度なリサイクルシステムを誇る人々」という新しい視点をもたらしたことを高く評価している。また、Shilton (2018) は、エル・シードのプロジェクトについて、地域の文化やコミュニティの間での対話や寛容さを生じた背景について、エル・シードのアイデンティティや芸術的履歴の影響を論じている。すでに述べたように、エル・シードはチェニアからの移民してきた両親の下フランスで生まれ育っている。そうした

生い立ちからアイデンティティの危機があったこと、更に芸術活動でアメリカのヒップ・ホップ芸術に影響を受けたことなどが、彼の対話や寛容さを生むストリート・アートの原動になったと考察している。

Shilton (2018) が指摘するように、エル・シードは、チュニジアとフランスのアイデンティティの危機を超えたからこそ、地域や国や宗教の対立を融和させる芸術を産んでいるのかもしれない。エル・シードのホームページを調べると、私が見る限り、彼が生まれ育ったパリと、両親のルーツのアラブとの dual identity を自覚し、アラビア語カリグラフィーをアートとして広め、異なる文化の架け橋になるアーティストとしての覚悟を持っていることが垣間見える。そうした二重のアイデンティティを持つことが関わっているかどうかはわからないが、エル・シードのホームページや“Perception”をプレゼンテーションした TED では、彼自身“Perception”で得られたのは、地域の人々との新たなつながりのなかで光を見たことだったと発言している。これは含蓄深い言葉だが、プロジェクトを行ったコミュニティの成員としての価値観や感覚を得たことが窺える。そこには、コミュニティへの理解があり、統合があり、新しい関係性の深まりが感じられる。

2. エル・シードの“Perception”のステレオタイプへのアプローチ

エル・シードの“Perception”には様々な背景があり、作品からの多種多様な社会的影響が生じており、一つの視点に絞って論じるのは難しいが、本研究のステレオタイプへのアプローチについて考察を加えたい。エル・シードの“Perception”が、単にアラビア語カリグラフィーでストリート・アートを表現したという以上に、エジプトのキリスト教徒コプト教徒のザパリーンに対する“Perception”を変えている。即ち、「臭いゴミの収集者」というステレオタイプから「効率良いグローバルなリサイクルシステム」というステレオタイプに変化させた。このとは非常に実践的で、かつ融和的なステレオタイプへのアクションだったと考えられる。

更に、エル・シードのカリグラフィティは、イスラムの言語であり、エジプトの多数派の宗教のイスラム教を象徴している。これに対して、“Perception”において50の建物に描かれたアナモルフォーシスの言葉は、キリスト教のコプト教の教主のことばであった。つまり、アートの表現としてはイスラム文化のアラビア文字を用い、西洋文化の一つであるキリスト教の教義を芸術的に街の建物から浮かび上がらせるという文化が融合された形の芸術作品なのである。これはイスラム教徒とキリスト教徒の分断の架け橋になるようなリレーショナル・アートを具現しているように思える。

“Perception”で描かれた言葉の内容もまた、「陽の光をはっきりと捉えたくば、まず己の目を浄めよ」という融和を示唆する言葉である。宗教的意味を度外視したとしても、『『ゴミ収集』というステレオタイプに惑わされず、ものごとの真実を見極めなさい』という意味にもとれる。この融和のことばもまた、人々の心に強く訴え、ステレオタイプの修正を促したのかもしれない。

eL Seed (2016) は、TEDの中で、当初は恵まれない人にアートの力で光を当てようと考えていたが、プロジェクトを通して、彼自身も地域住民も見方(Perception)が変化し、ただ美化することではなく、視点を変えることによって誤解や誤った判断を見直し、気づく“Perception”こと、新たに生まれる対話の尊さを涙ながらに述べていた。そして、エジプトの言葉 NAWARTOUNA (“You brought light us”) は、自分が光をもたらしたのではなく、現地の人から光をもらったと結んでいた。これは正にエル・シードがアラブと西洋を融合するプロジェクトの中でエジプトの心に触れ、影響を受けたことを著している。

エル・シードの“Perception”の経緯を辿ると、まず彼自身の多重な文化的背景に裏打ちされたアイデンティティと、芸術の手法におけるアメリカとイスラムの融合がバックグラウンドに感じられる。その上で、現地で実際に存在する経済格差や宗教問題などの対立に基づくステレオタイプを、イスラ

ムとキリスト教を融合したメッセージの表現を行っているところが、最大の特徴であろう。

心理学のステレオタイプ研究では、ある集団への固定した認知を修正することは難しいとされているが、エル・シードのように、隔たりのある集団同士を融合するアート作品によって、コミュニティが統合する可能性が示された。そこに至るまでには、エル・シードと彼のチームが、何ヶ月も現地にとどまり、教会の僧侶や地域の人々との交流がある。そうしたその地域の人々との相互の理解と協力があって出来上がった作品だからこそ、ステレオタイプの修正が生じ、コミュニティの統合が行われたのかもしれない。

エル・シードの“Perception”に見られるように、一つの作品を協同して作り上げるという試みは、相互に新しい「気づき」を産み、ステレオタイプの認知的枠組みを変えることになるのだろう。それはあるいは、一つの作品を仕上げるというリレーショナル・アートの作業の中で、同じものを作った同士という感覚が、「この作品を作ったわたしたち」というアイデンティティを生じてステレオタイプが修正されるのかもしれない。

いずれにしても、心理学は実験室や調査の質問紙のデータの解析に終始しているがため、こうした関係性を変化させ再構築するというダイナミズムは生まれにくい。心理学の研究で行われているのは、メカニズムの解明であり、それがこの世界をわれわれがどのように理解し、知覚するのかを明らかにすることは出来る。心理学の方法には、科学としてすべての人に一般化し、普遍的に貢献できる。

その点、“Perception”で行われたような認知の変化や関係性の再構築は、すべての人に適用できるものではない。つまりケース・バイ・ケースで、地域に密着しないと出来ないものである。それはアートにしか出来なくて科学には出来ないものだろうか。あるいはアートが、利害関係の外に有り、日常生活や経済格差とは直接関わらないからできるものだろうか。だとすれば、コミュニティ単位のステレオタイプへの働きかけは、アート・プロジェクト

におもねるしかないのだろうか。

ステレオタイプが生じる原因の一つは、様々な社会的問題や歴史が絡んでいることが挙げられる。それ故、エル・シードはプロジェクトの対象となる地域の歴史を調べ聞き取り理解してプロジェクトを行っている。そのプロジェクトもまた、ステレオタイプを修正し、コミュニティの統合に向かわせたという歴史を織りなしていくのであろう。そうした関係性の歴史を重ねていくことは、科学とは一線を画しており、コーランや聖書や語り継がれる物語として社会の中に浸透していくことになる。

今回の“Perception”のステレオタイプへのアプローチと心理学のステレオタイプの比較によって、リレーショナル・アートを含むアート・プロジェクトは、関係性や協同作業の過程や、モチーフとメッセージの部分でのコミュニティ間の融合が図られることでステレオタイプの修正が進むことが窺えた。心理学は、そうした働きかけから離れて、あくまでデータ解析中心でメカニズムの解明やモデルの提出に、と住み分ける道もあるかもしれない。しかし、このままでは心理学はステレオタイプに何も働きかけることは出来ないだろう。“Perception”や他のリレーショナル・アートのダイナミズムに学び、関係性や集団間の融合をケース・スタディとして、新しい心理学のステレオタイプ研究を進めていくことも必要なのではないだろうか。

引用文献

- Alshammari, A. A. (2019) . New material in Arabic calligraphy, *A literature review*, ISSN 2456-4931, Online.
 eL Seed. EL SEED THE ARTIST. <https://elseed-art.com/>
 EL Seed (2016) . 50 軒の建物に描いた平和のプロジェクト, TED https://www.ted.com/talks/el_seed_a_project_of_peace_painted_across_50_buildings/up-next?language=ja
 Garcia-Vasquez, M. (2016) . カイロのゲートを彩るエル・シードのカリグラフィティ <https://www.vice.com/jp/article/zmwvwy/caligraffiti-cairo-zaraaab-egypt>

- Gralińska-Toborek, A. (2017) . Dual Place of Street Art-the City vs the Internet. *Acta Universitatis Lodzianensis. Folia Philosophica. Ethica-Aesthetica-Practica*, (30) , 99-109.
- 藤永保・仲真紀子監修 (2005) . ステレオタイプ 『心理学辞典 普及版』 (Coleman, A. M.: *Dictionary of Psychology*, Oxford University Press, 2001) , 丸善株式会社, 367.
- 浜名外喜男 (1987) . ステレオタイプの認知『社会心理学用語辞典』 (小川一夫監修), 北大路書房, 184-185.
- Jonathan, W. (2016) . Street Artist eL Seed changes perceptions with Arabic graffiti that's optical genius. *The Huffington Post*, https://www.huffingtonpost.co.uk/jonathan-aj-wilson/el-seed-street-artist_b_9519854.html?guccounter=1&guce_referrer=aHR0cHM6Ly93d3cuZ29vZ2xlLmNvbS8&guce_referrer_sig=AQAAAGzGPwIm8JvgKSp0rSRSSL2huQMA_bP3KPaN8K4WxIVXiUnnCuoBvHmiw_9JnslaCAXiB3lhb75FVY1ad2ZQsesVOmyQHwSv2XPdpxmV-u4E5dPcfmNn6km9nCGZsCWkyemng2V8P15YsL_G7hPxVvNnttDT0H3oj80IKIF9slX
- 木船憲幸 (1987) . ステレオタイプ 『社会心理学用語辞典』 (小川一夫監修) , 北大路書房, 184
- リップマン (1987) 『世論』 上・下 (掛川トミ子訳, Lippman, W.: *Public Opinion*, 1922) , 岩波文庫
- 繁樹算男・四本裕子監訳 (2013) . ステレオタイプ 『APA心理学大辞典』 (VandenBos, G. A.: *APA Dictionary of Psychology*, APA, 2007) , 培風館, 476-477.
- Shilton, S. (2018) . Identity and 'Difference' in French art: el seed's Calligraphiti from street to Web. *Post-Migratory Cultures in Postcolonial France*, edited by Kleppinger Kathryn and Reeck Laura, 239-56.
- 杉森伸吉 (1999) . ステレオタイプ 『有斐閣心理学辞典』 (中島義明ほか編) 有斐閣, 473.
- Zahar, H. & Roberge, J. (2016) . Street Art: Visual scenes and the digital circulation of images. *Street Art & Urban Creativity Scientific Journal*, 2, 42-44.